

連載

音の生まれる場所

72

インディアン・フルートにこだわる



真砂秀朗

音楽の中に
美しい風景が観えた時が
至福の時

photo: 竹原伸治

まさこ・ひであき。旅の中で出会った民族楽器の音色やリズムに魅了され、体験するところから、音楽活動が始まった。'91年日本人のアイデンティティ探しをテーマにアワ (AWA) レーベルを開始。「しおのみち」等のアルバムをプロデュース。'92年から重ねた北アメリカ南西部への旅で新たな表現が始まる。インディアン・フルートを中心に、曲作り、演奏活動、様々なミュージシャンとのコラボレーションを重ね、4枚のアルバムをリリースしてきた。最新の「Colors in the Wind」ではインディアン・フルート、バンスリ(横笛)とケルティック・ハープ等4種の弦楽器とのデュオを構成している。また、毎年佐渡で開催される Earth Celebration や各地での「絵と音」展等、アートの分野でも活躍している。



これは、日本の篠笛



竹でできたバリのティンクレット。気温・湿度でピッチが変わってしまう



旅の中で出会う
様々な音楽

旅の中では様々な音楽に出会うものだ。今思い出してみても、いろいろなシーンが懐かしい香りと共に目の前に浮んでくる。

カトマンズの市場で何とも上手に一弦の手製の楽器を鳴らす楽器売りミュージシャン……。盲目のシタール奏者が毎日ふらつとやってくるアグラの楽器屋、我々はチャイをすすりながら演奏に聞き入り、しだいに夢の世界へ。気が付くと半日が過ぎ去っている……。田んぼでの仕事を終えて、村のガムラン集楽場に集まって来る面々。やおら始まるガムランの音色が、クレテック・タバコや熟した果実の入り交じった臭いと共に、ピンクに染まったバリの空に溶け込む……。

バマコの路地で突然出くわした結婚式
のドラミング。人垣の輪の中から着飾った女がドラマーに挑戦するように飛び出して踊り出す。多層に重なったリズムに



全身を委ねエネルギーを発散するそのダンスにたい見とれて人垣の一部と化す……。

ドゴンの村で小さな土の家の屋上に泊めてもらった早朝、何か心地良いリズムに目が覚める瞬間、ふと縄文の村に目覚めたような感覚がする。下を見ると、女

遠が鐘数を杵で打っている。時々入る手拍子がリズムにアクセントを付け、互いに相俟って朝の情景をつくっている……。

等々……。

その風土に生まれ育まれた
美意識の結晶

改めて考えてみると、僕の旅の原動力の大きい部分は、このような旅先での音楽のシチュエーション、とりわけ生活の中に音楽が溶け込んでいるという点に、自分の育ったこの国のこの時代に欠如していた何ものかを感じ、自分のアイデンティティが満たされるのを感じることができたということだったようである。

ネイティブなリズムやメロディ、音色、演奏の「しな」や仕草を含め、民族楽器とは、それぞれの風土の中で、文化の中で、進化してきたものだ。それは、その風土に生まれ育まれた美意識の結晶のように僕には見える。

内面に感じる音に出逢った時、それは何か宝物を探し当てたような嬉しさを感

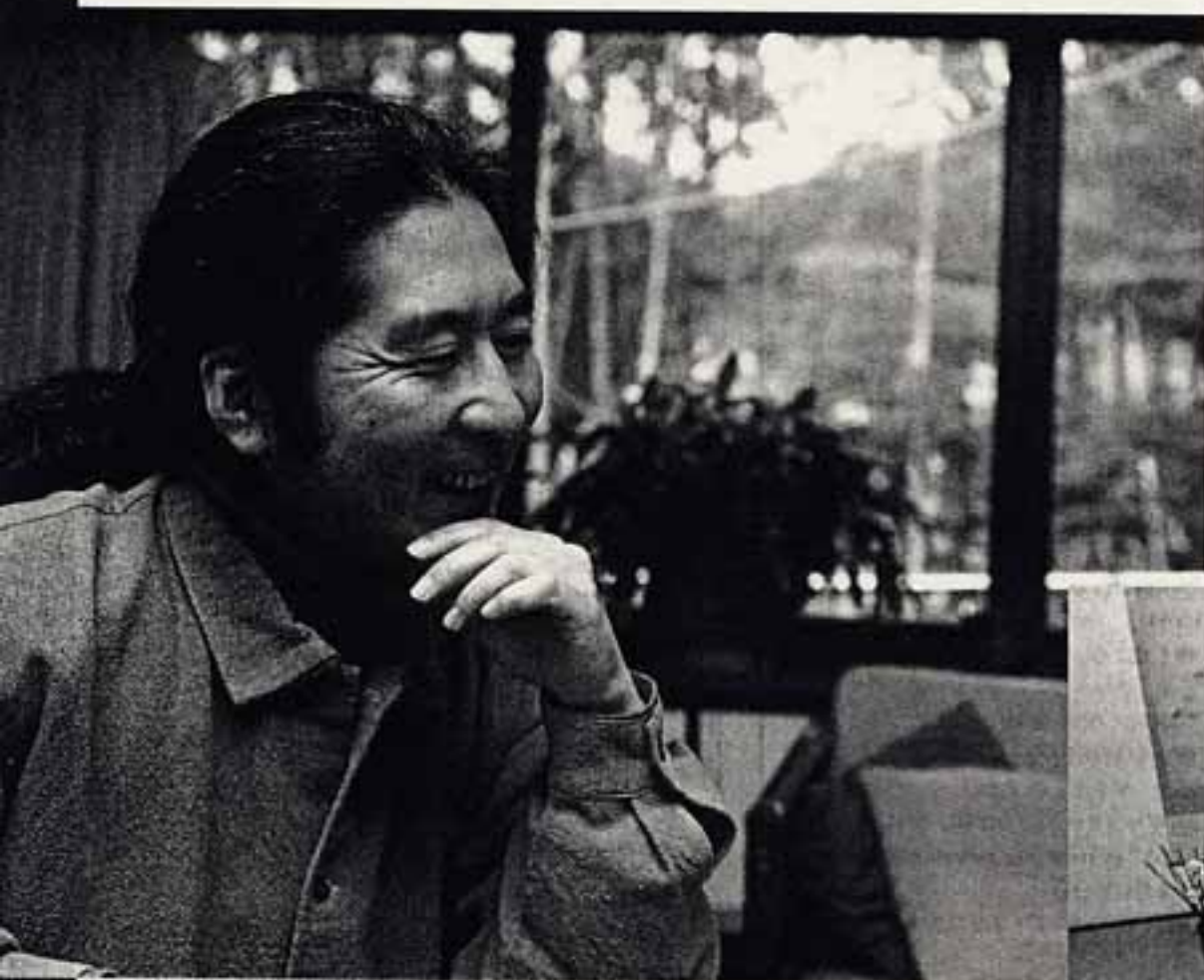


これが、インディアン・フルートの発音部分。右方から入れた空気をいったん外に出し、再び中に入れる時に音を出す。その部分は鳥の形をしている。この独特な仕組みによって特徴的な音色になる

じ、いささかでもそれを習い、その場の雰囲気のできる限り肌で吸収し、掃りの機内では楽器を大事に抱いていた。そんな数々の旅の中で、十年程前に出逢い、それまでになく深い心が満たされた楽器がインディアン・フルートである。

音色が大切にされている楽器
インディアン・フルート

アメリカ・インディアンの多くの部族の神話の中に縦笛が存在していることから、インディアン・フルートは彼らに永く親しまれてきた文化の一つだ。現在のよ様に正確なピッチで作られるようになったのはそう昔ではないと思われるが、一貫して大切にされているのは、その音色だ。部族によっては男が女に求愛する時にフルートを吹く習慣があったという



和室に民族楽器。このミス・マッチが楽しい



アフリカの太鼓。ジェンベのユニットを組んだこともある



くらい、音量でも音域でもなく音色の美しき、音のニュアンスを最も大切に進化してきた楽器なのである。

その音色に僕は深く引かれて、旅から帰っても毎日毎日、トラディショナルの曲をテープで聞いていた。次にアメリカへ行った時には、その演奏者に会いに行ったりもした。それから、アメリカ南西部に幾度となく出かけるようになった。祭りを見に、人に会いに、その風土を呼吸するために。

'94年の夏の終わり頃、チャコ・キャニオンの丘にフルートを抱えて立っていた。録音を目的に行ったのだ。標高1500メートルの乾燥した岩と砂の大地と真っ

CD

[真砂秀朗]

●Chaco Journey

チャコ・ジャーニー

AWCA-101

税込定価 ¥2,854



●Planet Love

プラネット・ラブ

AWCA-005

税込定価 ¥2,940



●Colors in the Wind

風の中の色たち

AWCA-006

税込定価 ¥2,940



[真砂秀朗]

十ウオン・ウィン・ツァン]

●Amazing Blue

アメージング・ブルー

AFA-0001

税込定価 ¥2,854

[プロデュース]

●しのおのみち

AWCA-001

税込定価 ¥2,854

●しのおのみち 二の巻

AWCA-002

税込定価 ¥2,854

●Island of Bows

ゆみのしま

R・カルロス・ナカイ+風の楽団

オキ、大倉正之助

AWCA-004

税込定価 ¥2,854

●Healing Feeling

KEITA

AWCA-003

税込定価 ¥2,854

コンサート

●5月5日(祝)

北九州 本福ホール

☎ノータス 093-511-2592

●5月13日(日)

葉山福祉文化ホール

☎AWA MUSE 0468-76-3074

Mail: Hmasago@aol.com

●5月18日(金)

松山市民会館

☎塚本 089-931-4655

Mail: YHV00073@nifty.ne.jp

●5月19日(土)

松山エスパス21 トーク&ライブ

☎塚本 089-931-4655

Mail: YHV00073@nifty.ne.jp

●5月20日(日)

伯方島 喜多浦八幡神社

☎Kyo 0898-33-0418

●5月22日(火)

今治 アート&クラフトKyo

☎Kyo 0898-33-0418

●6月16日(土)

高松 ギャラリー En

☎ギャラリー En 087-851-3711

Mail: syare@mm.newweb.ne.jp

●6月17日(日)

神戸 トアロード・リビングス・
ギャラリー

☎トアロード 078-230-0684

展覧会

●5月22日(火)~27日(日)

展覧会「絵と音展」

今治 アート&クラフトKyo

☎Kyo 0898-33-0418

●6月16日(土)~26日(火)

展覧会「絵と音展」

高松 ギャラリー En

☎ギャラリー En 087-851-3711

Mail: syare@mm.newweb.ne.jp

●展覧会(常設)

PLANTS内

Gallery Inter Natural Garden

横浜市青葉区日川西1-3-3

045-910-1246

主な著作

●絵本「ありがとう」(パルコ出版)

●絵本「いのち」「リズム」「かたち」

「ながれ」「ことば」「きもち」

「ひかり」(ミキハウス出版)

●絵本「おやこ色彩家」

(日本ヴォーグ社)

●CD-ROM

「Sounds from the Planet」

(シンフォーレスト)

問い合わせ先

Mail: Hmasago@aol.com

Fax: 0468-75-8593

ホーム・ページURL

http://awa-muse.com



青々としただけの空間。でもよく見ると、そこそこ何種類ものハーブが共生している。全く音の無い世界。しかし、一旦発した音はものすごく良く通る空間。米粒位に見える遠くで飛ぶ鳥の鳴き声が、耳元で聞こえるように感じる。覚悟したように吹きはじめ、二、三日してようやく腹から息が出るようになった。

アイデンティティを求めて旅をし楽器に出逢う

に見え始めてから半日がかりで近づいて来た雷の音と一緒に吹きつづけた。そこで出てきたメロディやイメージを基に、ネイティブなリズムや、民族楽器の音色を生かす為に相性が良いシンセサイザーやデジタル・テクノロジーによるアレンジが加わり、「チャコ・ジャーニー Chaco Journey」という最初のアルバムが仕上がった。

自分のアイデンティティを求めて旅をし、自分の楽器に出逢う。だがそれを演奏し始め、音を発したところから、また新しい旅が始まったような気がする。それは自分の内面への旅であり、それを表現することで人々と旅を共有してゆくこと。音楽の中に、手つかずの自然のような美しい風景が観えた時、奏でる方にも聞いている方にとっても、それが至福の時だと思っております。